



私が、阪神の大震災のときの被災地の避難をしている学校へ掃除にまいりました。そのときに大阪の上野さんが飯島さん他、あと二、三人ブラジル、サンパウロから来られた方々を連れてきておられた。私は、感心しましたね。いい方ですね。こうやって日本の被災地を掃除に来てくださる。世の中にはすごい人がいるもんだと思って、敬服をいたしました。ついで飯島さんと黒木さんと栗林さんと三人の方がいらっしゃる。私がそのことをお伝えしましたら、そのあとがいけなかったですね、「じゃあブラジルへも来てください」ブラジルから日本へこうやって来てくださっているのに、私の方が遠いから行けませんなんてことは言えなくなっちゃって。「じゃあ行きましょう」ということで、一昨年行ってまいりました。そして去年続けて行きました、今年は今もうとても社会的にも難しく、うちの会社からは五人だけの参加でした。そういうようなことが飯島さんのご縁の始まりでございました。

それでは日本を美しくする会ということで、それを強調しておられますので、飯島さんがご心配になっておられるようですね。日本から

も、人数は別として必ず毎年何人かの方が、この遠征を引き連れてブラジルへ、掃除に学ぶ会の運動が形になるお手伝いをし続けていきたいと思えます。

またサンパウロだけではなしに、できればブラジルの各地にこの会ができて、それでブラジルはブラジルで、ブラジルを美しくする会としてですね、飯島さんを中心にしてぜひ、方々にこの運動を広めていただきたいと思えます。それが、やがてはアメリカを美しくする会になり、ロシアを美しくする会になり、中国を美しくする会になって、そして世界を美しくする会、地球

を美しくする会というところまで、ずっと育てなければいいと思います。最初からあまりにも大きな、構想を打ち上げすぎると、理想と現実の差があまりにもありすぎて成就しません。

「一人光る、みな光る、何も彼も光る」という順番に従って、一人光るところから、みな光るところへ今、移ろうとしているところでございます。まずみな光るところまでいったら、次は何も彼も光るところまでいけるように、そういうふうにありたいと思います。

金子 それでは、鍵山さん最後になりますが、掃除に学ぶ会と直接関係はございませんが、政治について少しお話を伺いしたいと思います。日本を美しくする清掃運動と同時に個人として、政治をよくするため、鍵山さんは若い有能な政治家を応援していらつしやいますが、そのことについて少しお考えをお聞かせいただけませんか。

鍵山 もともと私は政治家というものが、大嫌いで、政治家くらい信用できない人間はいないというふうに思っております。家内が投票にいくなんて言うのと、

なんでそんなつまらないところへいくのかと。会社の方が投票に行つてから会社にくるから朝遅れてくるなんて、とんでもないけしからん奴だというふうに、こういう考えで長年やつてまいりました。それが、政治に私たちがあまりに無力である。何をどう言つたつて、変わりつこないという、変わるどころかますます悪くなるという見方をしておりました。

それが、この掃除を通して、私は松下政経塾の塾生八期生のときから何度か、政経塾におじやまをするようになりました。上甲晃先生が、塾頭の時代ですね。そして、この塾生の一人一人と交わるようになったわけです。中には本当に純粹で素晴らしい人がいます。こういう人を区域を越えて、国政や県政や市政に送り出さなければ日本はよくならない。こういう人がいつも、落胆をして、そのうちに志を失うようでは日本はよくならないということをおもったんです。それで、私は本当に志のある青年を地域を越えて全国区で応援をしたいと、そして応援をしたうえで、絶対見返りを求めない。おれはこゝうやつて応援したんだから、今度は応援してくれと、こういうつまらない次

元の話ではなく、応援のしっぱなしです。おれのことはいいからこの地域のことはいいから、日本をよくしてくれど、こういう考えをみんなが持つて、志のある青年を政治の場へ送り出す。それが大事だと思えます。

私が応援しているなんていうと、おこがましいんですけども、たとえ私の方がほんのわずかであっても、今できる範囲での応援をして、私一人ではとてもできないので大勢の方々に呼びかけて、お願いをしています。そういう仕組み作りをしていきたいなというふうに思っております。

ただ、いろんな会を運用するときこういうお話をすると、会を利用して私が政治活動をしていると誤解をされますと、この会そのものの存在意味まで失われてしまいますので、私はこういう会である特定の人を挙げてお願いしたりはしておりませんけれども、できましたら皆さん方で、志の高い人を応援していただきたい、もうこのことだけお願いをいたします。

金子 不慣れた司会でまことに申し訳ございませんが、以上で終了させていただきます。どうもありがとうございます。